

# 玉石集

アサヒグラフ編



玉石集



玉 石 集

昭和二十三年七月十日印刷  
昭和二十三年七月十五日發行  
昭和二十三年十月十五日二版發行

東京都千代田區有樂町二の三  
朝 日 新 聞 社

編 集 兼 發 行 者  
杉 村 武

印刷者  
東京都板橋區志村町五  
凸版印刷株式會社  
原 喜 平

發行所  
東京都丸の内・大阪市中之島  
朝 日 新 聞 社

(電話丸の内一三三一・北濱一三三一)

定 價 6 0 圓

## 玉石集序

歌に曰く高い山から谷底見れば瓜や茄子の花盛りと、絶景哉く、日本國中  
灰撒いた花咲爺さんのお手柄にて、新憲法の花電車、自由民主の造花を飾り、  
團子も喰へずにハナ面ならべて眺める人民を、お役人ハナであしらひ、給仕千  
圓の惣花と雖も、欲しい品物高嶺の花、闇に咲く花、惡の華、若い者のおたの  
しみは云はぬが花、「花あれば便ち入る、貴賤と親疎とを論ぜず」とは白樂天  
の心臓、そこで吾儕も風雅の花、花も實もある洒落三昧、見る人無情を觀ぜず  
して只無性に感ず、一寸の蟲にも五分の魂、山椒は小粒でピリリと辛い、今そ  
の諷刺譏笑を以て一ト趣向となし玉石集と名付けて大方の君子に授く、拈華微  
笑はお釋迦さま、虎溪三笑は掛軸の仙人、ウフフとでもニヤニヤとでもお好み  
に任せてお笑ひなさいと云いふことしかり爾の

昭和戊子の歲初夏

アサヒグラフ社中 敬白

裝幀……落  
合  
登  
插畫……橫  
山  
隆  
一

玉  
石  
集

兩眼固く閉じ、黙つてペエジをま



くればピタリと當るあなたの運勢

## 問題の住宅

ヴォルテールは王の逆鱗に觸れてバステイユに投獄された。やがて釋放され、この後、神妙にして、屠さえずれば何なりと心に掛けてやるがという有難い言葉を拜した。ヴォルテールは答えて、

まことに忝い仕合わせと存じますが、住居の儀ばかりは今後お氣に掛けられぬよう願ひ奉ります。

## お禮の效用

孔子の、弟子の子路が水に溺れようとする人を救つた時、お禮に牛が一头とどけられて

來た。子路は遠慮なしに頂戴したところ、孔子から大へんほめられた。

「子路や、お前が牛を遠慮しなかつたのはいいことだよ。これから河に落ちた人があつても世間では牛が貰えるといふのですぐに助け上げるだろうからね。」

## 門外持出嚴禁

アメリカのユーモア作家マーク・トウエンが近所の人に、本を讀ませてくれとたのむと「どうぞ御遠慮なく。但し持ち出さずに私の書齋でお讀み願うことになつていますから」といわれた。

數週間たつて今度はその人が彼に芝刈機を



借りにきた時トウエンは答えて曰く、

「え、お貸しいたしますとも。但し持ち出さずうちの芝生の上で御使用ねがいます」

## かゝ風の歌

武者小路中納言は風姿秀麗、才能

豊かな歌人だつたが、惜しいことにひどい吃りだつた。歌人仲間は何かというのと彼の吃りをあげつらつたが、

ある歌會の席上又もや吃りを取沙汰

し「世に吃りの歌は體をなすまい」と皮肉つたところ、中納言はさらくくと一首認めて咏み出した。

「秋の野にか、風吹けばそゝそよく、たゝた

ねまねくは、はつを花」

## 人形辯護

イブセンは友人の細君があだし男と手を携えて出奔したのを、自分のことのように立腹

した。ある人がそれを聞いて、



手を出す勿れ

「しかし、あなたのノラだつて家出したではありませんか」

「冗談を言つてはいけない。ノラは一人で行つたのだよ。ところが、あ

の不貞な女は姦夫と一緒になのだからね」

## どつちみち

ある人がソクラテスに、

「結婚すべきか否か」と尋ねた。

答えて言うのに、

「結婚しても、しなくても、何れにしても後悔するね」

### 生れぬ甥への勧告

チエホフがサガレン島へ旅行した時、持つて行つた安物の長靴がひどく履き具合が悪かつたので、早速妹へ手紙を書いた。

「愛するミシヤよ。私は必ずお前に子供が出来ると思うが、もし出来たら私が彼等に遺したい勧告は、安物を買うなということだ。品物の安いということは無価値ということだ。

私は安長靴を穿いて歩くよりは裸足で歩いた

方がましだと思ふ」

### 缺配の名畫

越の國に片忍という畫家があつた。ある日、自作の繪を俄成金に賣りつけに行つたが、その繪は一人の男がつぼめた傘を手にして立っているという何の變哲もないもの。買手がしりごみしたところ、片忍は「雨の日になると畫中の人物が傘を開きます」と斷言したので成金も大金で買つた。十日ほど経つた雨降りの日に「傘は開かんぞ」と成金が呶鳴りこんで來ると、片忍平然と曰く「あの繪に飯をやりましたかな。やりませぬじやろう。貴殿とても十日も飯を食わねば傘一本開けますまいて」

## 成るほど空気傳染

或時のこと、一人の占星術師が醫者に、「微

毒は空氣傳染するといふ事ですが、本當です

か？」ときいた。それをきいていた

ルネツサンスの政治理論家マキアベ

リーが微笑をうかべながら口をはさ

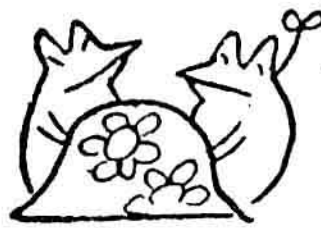
んだ。

「もちろん空氣傳染ですよ。もしそ

うでなかつたら、坊主の居る修道院から、尼

寺にまで擴がる譯がないじゃありませんか」

伸よくすれば……



明家が罷り出て、滔々と效能を述べた。

將軍は黙つて發明家にチヨツキを着けさせて

から、下男を呼んで徐ろに命じた。

「ピストルを持つてきなさい」發明家は顔面

蒼白となり蒼惶として退散した。

## 不肖の父

ラ・フォンテーヌは無頓着なので

有名だつた。ある時、サロンで一人

の青年と話をしたが、別れてから暫

くして脇の人に尋ねた。

「ところで、さつきの青年は一體、誰だつた

かね」

ウエリントン將軍の許に防彈チヨツキの發

「なんですつて。あなたの息子さんじゃあり

ませんか」

## 正に大発見

岩手縣の詩人宮澤賢治が高等農林に入つたばかりの頃、或日、家へ歸つて來るなり、家

## 文化日本

「動物 植物 礦物で

文化に 關係ありますが

その反對なのは 何でしょう」

「もちろん文化日本サ」

人に向つて、「おれあ、今日は重大な発見をして來たよ」と云つた。「重大な発見て一體何だい？」と家人達は眞顔で訊いた。

「いやね。實は、學校の教練で捧げ銃をする時、今まではどうしても他の人達より遅れたのだ。ところが、今日初めて分つたよ。俺は今まで他の人より一舉動、餘計なことをしていたのさ」

## ませてる子

モツアルトが六歳の時、ドイツ皇帝フランツ一世の宮廷で演奏したが、ぴかぴかに磨かれた廊下で轉んだ。その時、妙齡の姫君が助け起してくれたので少年は感激して「あなた

は随分親切ネ。僕が大人になつたら、お嫁さんに貰つてあげるヨ」といつた。姫君こそは後にルイ十六世の妃として、大革命の犠牲になり、ギヨチイヌで首をはねられたマリイ・アントワネットであつた。

## この方面也矣

「先生、先生はどんな方面で一番過ちをお犯しになりましたか？」と、きかれたとき、詩人ヴェルレーヌは、ただ黙つて、指を下方に向け、最も「雄弁」なる或る方面を指し示した。

## 卵を生む人間

プラトンがアテネの公園で「人間とは何ぞや」を講義していた。プラトンは先ず、人間を定義して「身體に毛が無く、二本足で歩く動物である」といつた。すると、横で聞いていたゾオゲネスは、生きたまま、羽をむしつた鶏を抛り出して、叫んだ。

「これがプラトンの人間だとさ」

## 特高も顔負け

唐の來俊臣と周興は如何にして罪無き者を罪に陥れるかを研究して、あらゆる拷問方法を羅列した「羅織經」という一書を残したほ

どの凄腕で有名だが、來は周を除こうという下心で彼に訊ねた。

「近頃の奴はひどく強情で容易に白狀しないが何かいい方法はないかね」「有るとも。釜茹をやつて見給え。何でも白狀するから……」

間もなく來が周を釜茹にし何でも白狀させたのはいうまでもない。

## 大藝術家の頭

洋琴家パデレフスキーがボストンの停車場で汽車を待つてると、靴墨で顔を眞黒にした小僧が、且那、靴磨かせて」というのでパデレフスキー先生銀貨を出して、「磨かなくてもいいからこれで顔を洗つておいで」小僧は顔

を洗つて來たので、銀貨をやつたが、小僧は、押し返して曰く、

「且那、この銀貨を上げるから、散髪しなよ」

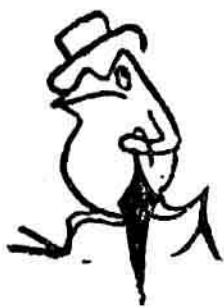
## 洋琴的提琴

皮肉屋のバーナード・シヨオがある家に招かれて、一ヴァイオリニストの演奏をきかされた。その家の女主人が感想をもとめたのに

答えて、

「さながらパデレフスキーを思い出します

「あら先生、でも、パデレフスキーはヴァイ



とも角出かけなさい

オリニストではございませぬのに？」

「だからですよ」

したことだろう。じや今後は十分に扶持を取らせなさい

## 養鷹の心得

## 極めつけ

探幽の弟子の久隅守景、家は貧しかつたが志高くて容易に人の需に應じない。

ミケランジェロが、たまたま、畫家フラン

腕はあつたので加賀侯が召し抱えて

大金が入ります

チャの息子を見て、その美貌にすっかり魅せられてしまつた。そして言

つた。

金澤に留めたが三年経つても扶持をくれないので守景も馬鹿らしいと致仕しようとした。近侍の士が侯にこの旨を取次ぐと候は笑いながら、



「フランチャ君は繪の顔よりも本ものの顔を作る方がうまいね」

## 正に受取申候

祿を與えれば描かないにきまつているから

三年の間放つて置いたのだよ、きつとこの三

奥太利の宰相メツテルニヒが、三銃士」

年間は暮しに困つて多くの畫をこの國にも殘

の作者アレクサンドル・デュマの筆蹟を類に

あんみつのこと

模・武者小路實篤

みつまめとあんみつとどつちが好きかときかれると僕はみつまめの方がいいと答へる。

人によるとあんみつは怪しからん喰物だといふが僕はさうは思はない。あんみつも悪いとはいへない。甘いものが欲しい時には、あんみつの方がうまいと感じることもある。

また、あんみつの繪は描いたことはないが、そのうちに描き度くなつて描く様なことがあるかもしれぬ。繪にならないこともないと思ふ。

しかしその繪を買つてくれる人があるか、どうかは別問題だ。



所望した。應諾したデユマは次の數行を記した。

### 受領證

一、ヨハンネスベルクの極上葡萄酒二十五

本右確かに受領仕候也

デユマ

メツテルニヒもさる者、欣然それを履行した。

### 馬鹿面試験

詩人のボードレーが酒場で、いきなり、友達にいいだした。

「君、赤ん坊の脳味噌を喰つたことがあるかね？」

周圍の人たちは意外な言葉に驚いて、互に顔を見合わせた。彼は低聲で、

「嘘だよ。俗人は驚いた時に最も美しい顔をするものだからね」

### エロ文學嫌い

オー・ヘンリは短篇小説最大の作家として、常に「アメリカのキプリング」「アメリカのゴーゴリ、YMCAのボツカチオ」等々、いろいろの讚辭を浴びせられ大満悦であつたが、アメリカのモーバツサンと呼ばれた時だけは嫌な顔をした。

「私は一度もあんな淫猥な小説を書いた覚えは無い」